

2028

高齢者のための家具

Furniture for the old man care

AD 34 樋浦 愛美
指導教員 杉島 一男

1.研究目的

私の祖母が車椅子とベッド上の生活が主なので祖母の生活が少しでも快適に過ごせるようにと考え、ベッドの周辺に収納できる家具の提案を卒業研究とした。

2.調査と分析

祖母の生活を観察し身近な所から問題を探した。ベッドに日用品が沢山おいてあり、自分で取れない物は誰かを呼び取ってもらう。祖母は人に迷惑をかけたくない、と気にしていた。

自宅意外での問題を見つけるために老人ホームや施設を訪問した。部屋には、大きな収納家具があったが、ベッドの上には日用品やヌイグルミ、飲食物がおいてあった。そしてほとんどの入居者がベッドの上に物を置いている事がわかった。

高齢者の疑似体験をした。結果、思うように体が動かない、手の届く範囲が狭いと言う事がわかった。以上の事から、使用者の手の届く範囲に収納スペースを作り、使う時に出し入れが出来る作業や飲食スペースがあれば便利だ、という事があげられる。

3.コンセプトの立案

「無理せず楽々生活できるベッド用収納」
無理な動作なしに楽に日常生活ができる使いやすさとわかりやすさを備えたベッド用収納装置でライフスタイルを楽しく演出する美しいデザイン。

4.デザイン展開

まず、人間の座っている/寝ているレイアウト図を描き、「手の届く範囲」を図面的に書いた。座っている時に楽に手が届く範囲には、使用頻度が高い物を収納したいが、頻度の高い物が多すぎて、楽に手が届く範囲にすべてを置く事は不可能。そして、物の大きさに合わせて区切ってしまうと、その物意外を収納する事ができなくなるという問題が出た。そこで、作業机だけだった箇所を開閉式の収納を作り、収納ができるようにした。そして、肘掛もつけて座ってる時に腕を乗せて休めるようにもした。手の平・指先が届く範囲には必要な時に出して使える作業スペースを作ろうと思い、手の範囲を図面化した形に注目した。手の範囲が、丁度扇のような形になり、デザイン的にも面白いなと思

い取り入れた。扇の部分には、飲食物等をおけるトレイと引き出しが付いている。回転させて使い、中のものを取り出す。寝ている時に手が届く範囲には、ティッシュやちょっとした小物が置ける収納を作り、自分側に返しが付いているので、物がころがって来ることはない。トレイが扇の形をしているので、それに合わせ全体的に円やアールを使って統一感を出した。

5.完成図



6.結論

祖母に見せた結果、実際使ってみないと使い勝手が良いかはわからない、見た目は面白い、腕の動く範囲が狭い人にはいいと思う、という意見をもらった。1/1で作り、実際に置いて検証する事ができれば、より良い作品ができたと思う。祖母をユーザーに設定し、高さや大きさを決定したので、他の高齢者には高さが不十分な点もあるはずだ。それは、足の高さ調節が可能な物にすれば解決できる。体が不自由な人のためのデザインの難しさを痛感した。今回学んだ様々な事を今後のデザインに生かして生きたい。

7.参考文献・協力

社会福祉法人 えのき会 杏掛ホーム
株式会社 西友荻窪店 まごころ一番堂